

聖徳大学言語文化研究所主催 第130回研究発表会

ユーラシア文化の中の日本神話研究プロジェクト
平成22年度 第2回 山口連続講座

神話と考古学の接点を求めて

講 師 : 山口 博 (聖徳大学言語文化研究所長)

日 時 : 平成23年2月24日 (木) 14:30~16:00

会 場 : 聖徳大学10号館14階 (松戸市松戸1169・松戸駅東口徒歩1分)

申 込 : 不要・先着150名 (定員に達した場合、入場をお断りする場合がございます)

費 用 : 無料

神話は、天上界にある高天原から豊葦原中国の支配者は天降ったと言い、文化人類学や民族学は、日本列島の支配者は中国東北部、朝鮮半島から渡来したと言い、考古学は神話について語ることはない。三者三様でなかなか接点が見出しえない。しかし、日本神話を語り伝えてきた人々は、弥生から古墳時代、そして飛鳥・奈良時代を生きてきた人たちであり、彼らの生活空間や状況が神話に反映していることは疑いない。この時代の考古学の研究は著しい進展を示している。そうであるならば、神話と考古学の成果の接点を求めることができるのでは。考古学を基にして、神話の編年を考えたら、どうなるのだろうか。

〒271-8555

千葉県松戸市岩瀬550

聖徳大学言語文化研究所 (知財戦略課)

電話 047-365-1111 (大代)

<http://www.seitoku.ac.jp/kenkyujyo/gengo/>

